

大草谷津田いきものの里 自然観察会

でんでんむしむしカタツムリ…

太田慶子（千葉市）

日 時：2012年6月17日（日）10:30～12:00 天候：曇り

参加者：23名（大人15名 子ども8名）

担当指導員：太田慶子・藤田英忠

朝まで雨が残り、始まる30分ほど前から小雨が降っていたが、開始前に止む。テーブル上に1週間ほど飼ったカタツムリを見せ、「飼っている時、他の野菜をほとんど食べず、ケースの下に敷いた濡らしたボール紙ばかりを食べていた。そのため糞は白っぽいばかり」と話しながら糞なども見せる。[ボール紙には石灰分が含まれていて、殻を作る役に立つのだそうだ] ボール紙を取ってニンジンなどを入れると仕方ないのか、ニンジンを食べてオレンジ色の糞もするようになった。またテーブル上に直接置くと、取ろうにも徒労に終わる粘力！ 剣山の上も、小刀の上も平気で歩く、首をすごく長く伸ばせる、などの“芸”もカタツムリには演じてもらった。

「でんでんむしむし…」の歌にもある「カタツムリの目はどこに？」という質問があった。長い角のようなものの先に光を感じる程度の目があり、小さい角のようなもので匂いや味を感じ取りながらエサを探すと説明。「そばで大声を出しても、手を叩いても角を引っ込めないよ」というと、そばでふうふうと声を出す子がいる。でもカタツムリはあまり角を引っ込めない。耳がないのだ。また、肺呼吸するので、殻の入口近くに呼吸口があり、それが開閉するのも見てもらった。

マイマイカブリという昆虫がいるが（千葉にいるのはヒメマイマイカブリ）、カタツムリ＝マイマイの殻の中に頭を突っ込んで食べるという天敵。この日は、雑木林でよく見られるお掃除屋さんのオオヒラタシデムシがカタツムリの殻に体を突っ込んで食べていたので、見てもらった。こんなシーンにはなかなかお目にかかるない。

タニシと言えば水の中にいる？ 陸にいるヤマタニシを大勢の目で見つけようというのをこの日の目標にして歩き始めた。

すぐに見つかったのは、小さなキセルガイ。またよく目にいたのは今年生まれの小さなニッポンマイマイ。わずか5mmくらいの円錐形の赤ちゃんがヤツデの葉や杉の樹皮上にいっぱい。ふつうのミスジマイマイより、横から見ると殻に高さがあるのがわかる。

ヤマタニシがなかなか見つからないので、子どもたちにはカエルになりたてのアマガエルの子を見てもらった。まだ少し尾を残している1cmくらいのカエルが多く、カタツムリの赤ちゃん同様可愛い。

やっとヤマタニシ発見。入口に蓋があるのを見てもらって帰途に就いた。

参加者：カタツムリって大きなのしか見たことがなく、小さなのもいるんですね。

ウンチがいろんな色になる！ 小さなカエルも見られた。

ちなみに、「カタツムリって雨が好き？」

「…好きじゃないでしょう。だって、雨粒が目玉の上に落ちてたら痛いでしょう？」

